

令和 7 年度の研究（または活動）内容

【交通安全】

- ・ 継続して基礎研究として、ながらスマホが認知課題に及ぼす影響の実験研究を行った。周辺変化が注視点変化の認知に及ぼす影響を確認した。（菊池）
- ・ ドライビングシミュレータを用いて速度知覚に関わる視覚要因と副次課題による認知負荷を操作し、周辺車両の速度変化に伴う同化性バイアスの発現・解消が生じやすい状況を検討した。背景手がかりについては有意な差は確認されなかったが、速度変化手がかりについては、音声課題および動画視聴課題を課した条件において、いずれも減速条件の方が加速条件よりも統計的に同化性バイアスの解消が遅く、バイアスの持続間隔も長いことが示された。（菊池）
- ・ ドライビングシミュレータを用いて、注意誘導方法の検討を行った。結果、いずれの注意誘導法でも制動距離の有意な延伸が確認された。しかし、副課題を課している場合には、文字による注意誘導は制動距離が短くなってしまい、一方で、単純な図形や音声誘導は制動距離の短縮が見られなかった。（菊池）
- ・ 来年度導入予定の自転車への交通反則通告制度を踏まえ、交通ルールが順守され、安全な交通行動が広く展開されていくために、走行空間の整備、混合交通、ながら運転といった課題について議論するために、「市民のための交通安全サミット」(2025 年 11 月 26 日)を開催した。（小川）
- ・ 交通安全危険予知訓練教材として、生成 AI・拡張現実を活用した幼児・児童向け交通安全教室を行った。（長谷川）
- ・ 長町商店街エリアの自転車走行空間整備方法に対する商店主の意識分析を行った。（泊）

【避難行動】

- ・ 昨年度末に収集した、フィリピン国マニラ近郊の中学生および仙台市内の中学生の防災意識調査データの分析を行い、両国の差異について考察した。（菊池・小野）
- ・ 3D 都市データを活用した防災教育コンテンツの開発と実践(写真 1)を展開した。今年度の主な実践内容については以下の通りである。（小野）
 - 学都「仙台・宮城」サイエンスデイ 2025,「ブロックで街を守ろう！マイクラで学ぶ大雨と洪水（Minecraft 非公式）」, 仙台
 - フィリピン国マニラ近郊中学校における防災教育(実施協力:JICA) (写真 2)
 - 岩手県盛岡市小中学校における防災教育(主催:国土交通省)
 - 岩手県北上市小中学校における防災教育(主催:国土交通省)
 - 宮城県仙台市立小学校における防災教育(主催:仙台市)



写真 1



写真 2

【地域交通対策】

- ・ 安全安心な社会や住環境の創出にむけた研究を行った。具体的には、公共事業や交通網再編、居住環境評価を対象に、合意形成や定住意向に影響する心理・社会的要因を定量分析により解明した。(青木)
- ・ 「魅力いっぱい！交通フェスタ 2025」にて、公共交通に関する情報が書かれたカードの配布、公共交通に関するクイズ、公共交通に関する意見の募集等を実施するブースを出展した。(菊池)

【研究会の開催】

- ・ 2026 年 3 月 11 日(水)に研究会を開催し、進行中の研究 4 本に関する議論を深めた。(参加者数 12 名)。